

平成30年度第3回社会教育委員会議 議事録

- 1 開催日時 平成31年1月29日(火) 18:30～20:00
- 2 開催場所 新居浜市役所庁舎3階 応接会議室
- 3 出席者 《委員》 安藤進一委員、小笠原忠彦委員、加藤すみれ委員、久保弥生委員、篠原雅士委員、永井和弘委員、秦榮子委員、日野幸彦委員、藤田誠一委員、藤本毅委員、三木悠司委員、山内保生委員、渡邊郁雄委員、渡邊誠一委員(計14名)
《市教委》 加藤事務局長、高橋課長、上野主幹、高田係長
- 4 欠席者 《委員》 渡邊大輔委員(1名)

5 事務局長挨拶

本日は、お仕事でお疲れのところ、また、お寒い中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

本来でありましたら教育長が参るところでございますが、本日は他の用務があり出席ができませんので、よろしく願いいたします。

本会議も3回目ということになりました。これまで2回の会議におきましては、ご意見をたくさんいただいており、大変感謝申し上げる次第でございます。

本日も「成人式について」と「これからの公民館のあり方について」の2題につきまして、皆様から忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

6 議事

(1) 成人式について

《資料に基づき、事務局説明》

①新居浜市成人式記念式典の報告

新居浜市成人式記念式典を1月13日(日)に実施した。ご都合を付けていただき、ご出席いただいた委員の皆様には、この場をお借りして改めてお礼を申し上げたい。イベント等はなく、11時から受付、11時半から実際には12時を少し回ったが、予定どおり式典を開催した。

②愛媛県へ報告した成人式の実施概要報告

該当者は1,136名で、参加人数は704名であった。実際にはこの人数以上の新成人の方が敷地内まで来られていたが、結構な人数が式典会場内に入らずじまいで今年も終わってしまった。

会場の市民文化センター大ホール内の雰囲気については、報告書にもあるが、「多少私語はあったが、滞りなく進行できた。」ということで報告している。

飲酒に関して、会場内ではなかったが、例年と同様に会場外では結構な飲酒の場面があった。放置されたり割れたりした一升瓶やお酒の瓶が残念ながら今年もあり、そのため片付けは15時位まで掛かった。警察の方からは通行人からの苦情の電話ということで、会場近くの路上で新成人が瓶を割っているという通報があり、対応した。

③式典案内ハガキでのアンケートの集計結果報告

成人式の実施日と実施時間帯のアンケートの集計結果について、無回答も結構あったが、実施日については現行どおり、成人の日の前日の日曜日という意見が一番多かった。実施時間帯については、午前中という意見が最も多かった。

④今後実施するアンケートの内容

当社会教育委員会議の中で、「これから成人式を迎える高校生あたりをターゲットにアンケートを実施してはどうか。」というご意見をいただいております、当教育委員会の戦略監が高校生と話をする中で、設問や選択肢等について、コミュニケーションを取りながらサンプル的なものを作成した。

(アンケート内容説明)

高校生からは、

ア 記念品について、記念品に予算を使うのであれば、写真映えする立て看板を複数用意する方が喜ぶ。

イ イベントについて、今の若者は趣味・趣向が多様化しているため、興味があまりないイベント等は見ない、友達としゃべっていたいとなる。成人式への参加促進の効果はあまり無いのではないかと。

ウ 記念品について、今の若者は欲しいものが無いので、選択肢で示すより記念品が必要と考えるのであれば、自由記述で記入する方がよいのではないかと。

というような生の意見をいただいている。

⑤成人式に関する若者の意識調査結果（新聞報道）

若者の7割は、成人式は20歳だと考えているとの調査結果である。

⑥市内の呉服屋からの依頼書

20歳の成人式に関する市長、市議会議員及び教育長への要望等。

⑦既に20歳での成人式開催を決定した市区町村として、京都市、高松市、神奈川県逗子市、埼玉県蕨市があるとの情報がある。

《成人式記念式典出席委員さんの感想等》

(秦議長)

今回、実際に成人式にご出席いただいた委員の皆さんから、ご感想・ご意見をお願いしたい。

(小笠原委員)

時間的には30分は限界かと思う。あれ以上長くなると、会場がもっとざわつくのではないかと。式典自体はスムーズに流れていてよかった。ただ、新成人の主張はお二人とも市外に出ている方

だったので、できればお一人は市内で頑張っている方であれば、もっと身近なものになったのではないか。

(篠原委員)

以前出させていただいた時よりも、良くなっていた。今年も飲酒があったということであるが、そのまま中に入って来られたら大変である。昔は一升瓶を持って入って来るのを見たこともある。それから比べると良くなったのではないか。

(永井委員)

自身の成人式の時は全体的にザワザワしていて、いやな雰囲気だと感じていた。報道で色々な問題が取りざたされているが、若者たちは思っていたより静かに聞いていた。前半はざわざわした雰囲気があったが、新成人の主張が始まる位からスッと落ち着き始めたようである。若者が主役でやっているのが良かった。式典の時間は30分でよいと思った。来賓の議員さん3人より祝辞をいただいたが、3人とも良い内容のお話しであった。始める前に何か一工夫すればもう少し落ち着くのではないかと思うが、アイデアは出て来ない。

(藤田委員)

私の息子も成人式に出席した。息子に聞くと、「記念品をいただいても、持って帰るかどうかわからない。みんなと会えたことが非常に楽しかった。」と言っていた。ちなみに、式典が終わって、南中、東中、北中の同窓会が市内の施設で18時から行われたそうである。別の施設でも中萩中、川東中、角野中であったか、同窓会が行われたそうである。「夜は中学校の同窓会があったので、式典の際には高校時代の友達と話ししてしまうから、どうしても中に入るのが遅くなってしまったと思う。」と言っていた。また、成人式を18歳と20歳、どちらで開催するがよいか聞いてみると、「20歳の節目で開催するのが良いと思う。飲酒の問題があり、飲酒・タバコも法律では20歳からとなっており、20歳でも問題になっているので、新居浜市全体では20歳で祝ってほしい。」と言っていた。時間も「30分が限度とみんなも言っていたので、お笑い芸人やアスリートの方を呼んだとしても、それ以上長くなると勝手に出て行ってしまうのではないか。」と言っていた。

(三木委員)

例年、青年会議所で会場内の警備に携わらせていただいている。私も何回か出席させていただいているが、例年と同じかなというイメージで、外では飲酒して騒いでいる者がいて、時折中に入ってきたり、少しヤンチャそうな子が前に座っていたりというようなことは同じであるが、ただ、同じ歳の新成人の主張が始まると、私語もスッと止んだが、この点はすごい、受け止めているのだなと感じた。アンケートに関して、イベントについて、今は多趣味、色々な趣味の人間がおり、イベントをして人を呼ぶことは、それに全く興味が無い人を逆に阻害することにもなりかねないので、式典は式典として執り行う方が良いと思う。その方が成人式の意味合いを新成人の皆さんにお伝えしやすくなるのではないか。18歳と20歳、どちらでの開催が良いかという点では、公民権等が18歳に引き下げられたが、飲酒等20歳を基準としているものも多くあるので、20歳という基準を保った方が良いと思う。

(渡邊郁雄委員)

新居浜での成人式は初めて出席させていただいた。30分という中で、先程もあったが、同世代の人が話し出すと静かになり、しかも、拍手は会場の方から先にあったような気がする。良く流れ

た成人式であったと思う。タウン誌に成人式参加者の写真が掲載されていたが、「会場内に、こんな子達はいなかったのにな。」と思って見ていたが、先程お話があったように、会場の外にいた子達だったのだなと初めて分かった。

(渡邊誠一委員)

会場内は意外とおとなしかった。外では騒がしくしていると思っていた。参加者は704名ということであるが、会場はもっと埋まっていた、もっと多かったように思うが、どうか。

(事務局)

人数について、案内ハガキを回収するようにしており、当日忘れた方にも白紙のハガキに氏名を記入していただいているが、基本的に、中に入った人数は案内はがきの回収枚数とイコールということで集計させていただいている。

(加藤事務局長)

保護者の方も出席されており、後ろの方の席は、結構保護者の方が座られていた。

(渡邊誠一委員)

会場内は結構おとなしかったなということもあり、ヤンチャされている方の外の様子も15分位見ていたが、友達との会話がすごく多かった。「久しぶり。」というような声が一杯聞かれた。飲酒していたのは、自分達の枠の中に入って騒いでいる、ほんまものの人を見ていないというか、そのようなイメージである。これで生きているという出会いがないというか、アスリートでも何でも、自分達の蚊帳の外で生きている人達なんだろうなと思いながら、自分達はアピールをする。酒を飲んで、違う方にアピールしていつている、言わば自己肯定感の低い人達ではないかと思った。今は自己肯定感を高めようという教育を行っているので、長い目で見れば段々減っていくのではないかと思いながら、少し怖かったが、外の会話を聞いてみた。

(日野副議長)

今年は主催者側であったが、今までは来賓として十何年出席させていただいてきた。毎年良くなってきたのではないか。私が出席し始めた当時は、酒を持ってきてワイワイ騒ぐ。今はステージへ上がる階段は外しているが、過去には階段からステージへ上がって行く者もいた。また、新成人の主張が始まるとえせらう者、司会者と慣れあいとなりやり合う者もいた。昔は上がってやろうと前の方の席に並んでいた。間違いなく良くなっている。私語が少なくなってきた。ただ、いつも気になるのは、入場しない人が多い点である。なんとか中に入れてもらう方法はないか。新成人の主張に関して、市内の方という意見があったが、どのように決めているのか。以前は校区単位で回していたが、今はどうか。

(秦議長)

2、3年前までは会場内を走り回ったり、舞台上に上がって来たりする者もいて、どうならい、と思う事もあった。毎年、皆さんのご意見も聞きながら改善してきており、良くなっていると思う。情熱、バイタリティーに富んだ、オーラのある新成人がいるのだなとうれしく思いながら、毎年成人式に出席するが、新居浜らしさを、今後も色々な人のご意見も聞きながら、一歩前進していくような成人式であればいいなと思っている。

(事務局)

貴重なご意見、ありがとうございます。

先程お話があったが、新成人の主張と司会については、現在も持ち回りで各公民館へお願いし、

選出いただいている。

感想ということだけで、まだご意見をいただけていない部分もあるかと思うので、更にご意見があればお願いしたいと思っている。

(渡邊郁雄委員)

本日の会議で、成人式を行うのは20歳がよいか18歳がよいか、決定することになるのか。タイムテーブルというか、今回はどういう意見を出したらよいか、第3回のあり方について教えていただきたい。

(事務局)

資料でもご覧いただいたが、アンケートの結果も踏まえて最終的な結論を出したいと考えている。ただ、先程来、20歳での成人式というようなご意見も出ていたと思うが、今回の会議で一定の方向性として、最終結論ではないまでも、20歳の成人式がよいのではないかという方向性が一定の着地点として見えるのであれば、それもアリかと思う。新成人に中に入ってもらう方法、参加人数を増やす方法についても、アンケートにも盛り込みながら、最終的な結論も見れるかと思っている。事務局としては、次回の会議で最終的な結論を出せればと考えている。18歳での成人式あるいは20歳での成人式という事で、ご意見が一定の方向性を向くのであれば、ご意見をいただければと思う。

(秦議長)

この件について、ご意見があればお願いしたい。

(久保委員)

18歳にすると、この時期にはセンター試験等もあり、進路について選択する時期ではないかと思う。出席しにくい、出席したくてもできないということがあるのではないか。

(渡邊郁雄委員)

18歳ですとすれば、お盆の時期ならできると思う。成人式は各自治体で決めるということであるが、例えば今治市は18歳で行う、新居浜市は20歳で行うというように、同じ県の中で違いがあってよいのか。これまでに、首長の話し合いで、こういうことで行こうというようなことはあったのか。各自治体単独で行ってよいのかどうか、気になった。

(事務局)

基本的には各市町で決定するというスタンスになる。ただ、18歳成人ということに伴い、成人式をいつ行うかという問題が全国的に発生している。国で一定集約した情報を、各都道府県を通じ、市町に下ろして来るということが予定されている。それらの情報もしっかり掴みながら、また県の方では各市町の情報を集約しているところであり、その情報も確認し、一定の方向性の中で落としどころがあればと思っている。

(日野副議長)

18歳成人式ということは、18歳選挙権となったため、国の方針としても出て来た意見と思う。本来成人式は20歳ではないか。選挙権のこともあり、成人も18歳ではないかという意見もあり、出されたのではないか。例えば、18歳で実施ということであれば、初年度は18歳から20歳までの人が同時に対象となることとなり、大変な事になる。国からは、なかなかこれをしなさいとは言えないのではないか。

(渡邊郁雄委員)

資料でも、国では決めるものではないとある。

(日野副議長)

余談ではあるが、当時もめた時に、校長先生から、新成人の主張は高校の卒業生で選んだのでよいのではないかという意見もあった。高校の卒業生が一番身近であるが、公民館で選ぶと中学校までしか分からない。中学校から成人になるまでに変わっている場合もある。公民館で選ぶ場合、中学生時代を思い出して、この子なら良いだろうと選んだ過程がある。高校の校長先生が選ぶのはどうかという意見も当時あった。

(藤本委員)

国が情報発信するということと、ガイドライン等なものを示すということで、新居浜市としていつまでに決めなければいけないということはあるのかと思う。自治体によって成人式の年齢がバラバラというのは、現実的には支障もあるかと思う。できるのであれば、ガイドライン等を踏まえたうえで判断しても良いのと思っている。個人的には20歳が良いのかなと考えている。確かに法令上は選挙権だけでなく、成人年齢18歳ということであるが、ただし、お酒やタバコは20歳からとなっている。例えば成人の日という形ではなく、20歳を祝う式典という趣旨で実施すれば、不自由なくやれるのではないか。

《各委員（議長・副議長は除く。）より20歳と18歳のどちらがよいか、ご意見をいただく》

(藤田委員)

20歳がよいと思う。

(藤本委員)

20歳であるが、国のガイドラインを待って判断したのでよい。

(三木委員)

20歳というのは一つの概念的なもので成人と扱うもので、法に関わらず20歳でやればよいと考える。

(山内委員)

20歳で続けるのが混乱もなく、よいと思う。

(渡邊郁夫委員)

20歳ではあるが、流れの中で考えていただけるとありがたい。

(渡邊誠一委員)

20歳でよいと思う。成人式というよりも、20歳を祝う式典と言う形がよいと思う。

(安藤委員)

20歳でよいと思う。他市町はあまり気にしなくてよいと思う。夏に開催するところもある。

(小笠原委員)

20歳がよいと思う。

(加藤委員)

20歳でよいと思う。

(久保委員)

20歳でよいと思う。「20歳を祝う会」等、ネーミングは後で決めればよいと思うが、対象の人達が何かの形で計画の段階から関われば、また違った形の良い式典になるのではないか。

(篠原委員)

一番引っかかるのは喫煙と飲酒であり、もし18歳となると、18歳でそれをやってしまうのではないかという懸念がある。だから20歳がよい。

(永井委員)

20歳でよいと思う。

(秦議長)

委員12名全員が20歳というご意見であった。ご検討をお願いしたい。

(日野副議長)

これは、教育委員会から市長へ報告することになるのか。

(事務局)

そうである。

(秦議長)

色々ご意見をいただいたが、やはり世の中が変わってきており、それに順応しながら、それぞれの市町等とも十分コミュニケーションを取って、無理のない新居浜市のあり方であってほしい。

(藤田委員)

式次第、看板等に「Hello! NEW」の文字が入っておらず、この点が気になったので、次年度は考慮いただきたい。

(2) これからの公民館のあり方について

《資料に基づき、事務局説明》

①中央教育審議会の答申

平成30年12月21日に中央教育審議会から文部科学省へ答申された「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（答申）概要」であり、前回の配布資料では「（答申案）概要」となっていたものである。

②第1回・第2回資料よりの抜粋等

- ・第1回の資料から抜粋した今後の公民館の役割、機能等についての記載で、本日の資料としていただければと考えている。
- ・公民館の所管のあり方について、「特例を設ける中で、市長部局で所管することができる。」よう答申されている。
- ・第2回会議における委員さんの発言等、キーワードを抜粋している。

《第1回会議の際の諮問書を配布》

(事務局)

第1回会議の際に教育長から秦議長へ諮問させていただいた諮問書の写しである。人生100年時代を生き抜くために新居浜市の公民館に求められる役割は何か、今後の新居浜市の公民館のあり方はどうあるべきか、ということについて委員の皆様のご意見を集約したものを作り上げたい。

(渡邊郁雄委員)

13ページに、教育長さんから公民館の所管のあり方という話が出ているが、教育委員会が所管するのか、市長部局が所管するのかについては、今回の答申において踏まえることなのか、置いておいてということなのか。教育委員会から市長部局に所管が変わった時に、メリットとデメリットはどういうものがあるか、教えていただきたい。

(事務局)

9ページの「今後の社会教育施設の所管の在り方」の部分で、「社会教育に関する事務については今後とも教育委員会の所管を基本とすべき。」とあるが、一方で、「地方の実情等を踏まえ、より効果的と判断される場合には、地方公共団体の判断により、地方公共団体の長が公立社会教育施設を所管できる特例を設けることについて、社会教育の適切な実施の確保に関する制度的担保が行われることを条件に、可とすべき。」となったということである。

公民館を市長部局へ移管させると、そこまで踏む込んだ議論ができればまた別であるが、まずは「公民館が社会教育施設としてどうあるべきなのか。」、「人生100年時代、平成に続く新しい時代の公民館としてどうあるべきなのか。」ということを中心に置いていただき、その中で、特例も加味してはどうかという付帯意見的なものを作るような形でできるならばそうであるが、実際のメリット、デメリットに関し、今こういうものがあるという深堀りしたものが出ている状況にはない。今からそのような事が展開されていく中で、事例も見ながら、研究あるいはそれに向かって良い所があれば選択していくことになるかと思う。

(日野副議長)

公民館に関し、国の方針も変わった。公民館を改築あるいは新築する場合、公民館という名称では国からの予算は下りない。文部科学省の組織においても、社会教育課は名称が変わった。

2・3日前に連合自治会で広島を訪問したが、公民館は無く、コミュニティと言う組織が新居浜でいう公民館を運営していた。学校ともタイアップしていた。広島では5・6年前からそうしているとのことであった。

教育長を選任するにあたり、以前は教育委員会が教育長を選任していたが、現在は市長が教育長を任命できるようになっている。前任までの教育長は4年の任期であったが、現教育長は3年の任期で3月までで、今回改選となる。

世の中が様変わりしている。

今の案は、公民館は教育委員会を外れて市長部局へ行く方が良いのではという考えで述べていると思っている。どちらが良いのか皆さんで協議し、方針を出して行きたい。

メリット、デメリットの問題であるが、単純に考えると予算の問題が大きく係わると思う。教育委員会では予算をこれだけしか持っていない、これだけでやらないといけないとなるが、市長部局であれば融通が利きやすいというメリットがあるかもしれない。

学校も今までより地域とつながりを持たなければいけない。4月からは全ての校区でコミュニティ・スクールが始まることとなる。地域とつながるということであれば、教育委員会の中にあってはなかなか難しい部分もあるのではないかと考える。教育長さんもそのようなことで、第2回の会議の際に言われたのではないか。

新居浜市では社会教育は残している。公民館を残そうと思えば残せる。

この辺りを頭の中に入れて協議するのがよいと思う。

地域の人が栄えて、もっと裾野を広げて、公民館が核になってもらわないといけない。そのため

にはどうすればよいかという事を真剣に考える時期が来ているのではないかと。

参考に、連合自治会では、コミュニティに関する調査のために予算を取ろうとしている。あらゆる人に入っていただいて、現場へ赴いたり、検討したりする予算である。その辺りが出発点ではないかと考える。

(秦議長)

ソーシャルキャピタルというのは、官民一体となって地域を良くするというのが目的である。私達の知らないところで云々というのではなく、こういう状態になっているということ、公民館、教育委員会、それぞれの立場で、十分に連携を取りながら、良きようにお願いしたいと思う。

(日野副議長)

市民部と教育委員会はあまり話せていないのではないのか。

(事務局)

特例を設けることについて、9ページにメリットと考えられる4点が挙げられている。

コミュニティについては市民部が主管している。コミュニティの関係と公民館がどうあるべきかについて、地域運営組織というような大きなコミュニティの運営母体ができるのかどうか、そういったものが例えば公民館を運営する、そのようなあり方が将来的に可能なのかどうか、というようなことの調査研究は今からやっていかなければならない課題となっている。同時並行ということになるかもしれないが、10ページに国の今後の公民館に求められる役割が6点あり、委員さんから、国の求める方向性として合っていると、新居浜市もこれと同じ方向性を向くべきである等のご意見をいただければ、答申に盛り込んでいきたいと考えている。

(三木委員)

地域で目的が変わる。一から作り上げるのは根気が要ることであり、なかなか進まないのではないかと。我々が何かをする場合、他の例を見て、「あれは良い。」とか、「こういうことをこちらもやりたい。」等というのがスタートであると思う。県外の事例、モデルケースを広く落とし込み、その中で「こういったことはいいよね。」というような所でスタートを切れるような形を取っていくのはどうか。

(渡邊誠一委員)

地域コミュニティに関して、成果を求められても数字には出ない。それを示すのものとして、子どもの出生率で計ってはどうか。新居浜市は1.8で全国平均よりも高いが、出生率をうまく利用し、企業にも入っていただきながら計って行く。こういうことをしたらよいということが漠然として分かりづらい。数字をしっかりと追い求めていくうえでは、コミュニティをどうやって維持していくのか、伝統的にこの地域はこうなんだということを示せばよいと考える。今は人口減少の問題もあるので、この数十年は出生率を追い求めることをしてはどうか。

(秦議長)

今は改正期、過渡期にあると思う。対象、やり方等色々なことが変わってきていると感じる。関係者、関係機関が一致団結し、連携を密にし、取り組んでいただきたい。

(日野副議長)

特徴ある公民館を維持するのが良い。公民館が地域の特徴を出していくと、地域が、住民が、潤うのではないかと考える。今の子どもたちには、我々の考えられないことが起きているのが現実ではないか。地域が支えてあげて、子育て支援も行うとなると、学校も協力するが、公民館が中心に

ならないといけない。

(秦議長)

地域を支えるのは、どこが中心となって、誰もがそこに寄って行って、色んなことを話し合えるのが大事だと思う。今は自治会に入らない人も多い。公民館も関係ないと思っている人もいる。どこをベースに新居浜市を良くしていくか、コミュニケーションを取る場所を皆さんが認識しないといけない。長年ボランティア活動を行っているが、マイペースの人ばかりが育ち、地域の事はどうでもよいという人も少なくない。この点を憂いている。

この会に際しての新居浜市のあり方について、事務局を中心にできるだけ話し合い、皆さんに知らせて、誰もが住みよい新居浜市になっていただければと思う。

(事務局)

委員さんのご賛同が得られるのであれば、10ページの6点について、方向性は間違っていないと思っており、これを前面に出しながら、先程来頂戴したキーワード（子育て支援、モデル公民館、モデルケース、出生率、コミュニケーション、特色ある公民館等）や、これまでのキーワードを加える等し、文章的にまとめていければと考えている。次回の会議で、まとめたものをご覧いただき、ご協議いただければと思う。

(3) その他

①新居浜市公民館研究大会について

《資料に基づき、事務局説明□

(事務局)

ご都合の付く方はぜひご高覧いただきたい。出席いただける方は2月15日（金）までに事務局（担当：高田、上野）までご連絡をよろしく願いしたい。（地域より既に出席の報告をいただいている方は除く。）

(秦議長)

貴重なご意見をたくさんいただき、皆さんお疲れさまでした。

インフルエンザも流行っておりますので、お体には十分お気を付けください。

また、今後の新居浜をどうするか意見がありましたら、いつでもかまいませんので事務局までお知らせいただいたらありがたいと思います。

以上を持ちまして平成30年度第3回社会教育委員会議事を終わらせていただきます。

ありがとうございました。